回想 Reminiscentia æterna

刻みし轍は黄金(きん)の絃(いと)
寵(め)でられ奏でた爪の跡
慕いて捧ぐるこの身のままに
遍(あまね)き澥気(エエテル)に涵(ひた)された
私は毀れた智慧の板

ああ　はかなく　はてなく　あてなく
あだめく　さざめく　ざわめく　淡き残影(おもかげ)たち！

過ぎにし生命(いのち)に幸あれと
来(きた)るべき日々に価値あれと
祈りの応(いら)えも見果てぬままに
波風の随意(まにま)に崩れ散り
去りゆく私は夜の塵

時間を閉ざした牀褥(しとね)に侍り
交わす悦びをいかに量ろう？
移ろう季節もなかりせば

幾恒星年　待ちわびて
幾光世紀を距(へだ)てても
熏(くすぶ)る夢の半減期の
いくばくかを知らず

刻みし轍は黄金の絃
去りゆく私は夜の塵
明けわたりゆく老いたる世界に
ひとよの終りの吻(くち)づけを

歌：天戸屋 成
作詞：うみほたる
作曲：あやちぎん